

カリキュラム概要

国際社会開発研究科では、院生が持つ経験や開発事例を踏まえ、それらを総合化・相対化できるように重点を置いています。具体的には、マクロ経済からミクロ社会、現状分析から政策論にわたる開発関連諸分野について総合的に学び、開発諸領域を包括する「開発学」の枠組みを修得しながら、個々の開発事例・経験を修士論文としてまとめるための研究指導を行います。

本研究科の教育課程は、途上国社会の理解と、社会変化への方法を中心に、いくつかの分野及び研究領域に区分けして「開発学」として体系化しています。さらに開発関連分野の中で重点的課題に注目して、これらを特論的に派生させる形で、多様な科目群で構成されています。

具体的には、途上国と開発に関する共通の理解を育み、実践的な研究方法論を身につける「基礎教育科目」、実学としての開発学に必要な基幹的な知識と方法論を修得し、国際社会開発関連分野の中で履修者の個々の関心を掘り下げる「展開科目Ⅰ・Ⅱ」、海外および日本でのレクチャー・フィールドワーク・ディスカッションを通じ開発に必要な現場経験と応用力を身につける「地域開発研究科目」、院生各自の研究課題について相互討論を通じた問題解決型の研究指導を行う「リサーチ科目」の4つによって編成されています。



●2024 年度開講科目一覧

区分	科目名	修了要件
基礎教育科目 (テキスト科目・一部集中講義)	開発研究入門 ^{*1} / 国際社会開発の基礎 / 研究方法論 / 社会調査とデータ解析 [各科目2単位]	2科目4単位以上
展開科目Ⅰ (テキスト科目)	途上国社会経済論 / 開発組織・制度論 / 地域社会システム論 / 開発経済論 / 開発のミクロ経済学 / コミュニティ開発 / 開発評価論 / 地域社会開発論 / 環境計画論 [各科目2単位]	展開科目Ⅰ・Ⅱの中から5科目 10単位以上
展開科目Ⅱ (テキスト科目)	現場のためのICT活用 / 国際保健論 / 障害と開発 / 開発協力論 / マイクロファイナンス論 / 国際開発ワーカー(支援者)のための ビジネスの基礎 / 現地語による開発事例研究 / Social Development ^{*2} / Participatory Development ^{*2} / 福祉社会開発演習 / 国際社会開発特論Ⅰ・Ⅱ [各科目2単位]	
地域開発研究科目 (スクーリング科目)	日本及び東アジア地域開発研究 / 東南アジア地域開発研究 / 南アジア地域開発研究 / アフリカ地域開発研究 / 特定地域開発研究 / 海外開発実践 [各科目4単位]	2科目8単位以上。 ただし、2科目における実施国 は同一国不可
リサーチ科目 (研究指導)	国際社会開発演習 テーマ: 「開発と文化」「障害と開発」「情報と開発」 「環境と開発」「住民主体の開発」「地域マネジメント」「ガバナンスと開発」 「アントレプレナーシップと開発」 [8単位]	8単位

*1 名古屋キャンパスでの集中講義 *2 英語で実施される科目

・開講科目は、年度ごとに変更される場合があります。

・地域開発研究科目については隔年開講等で変更・実施される場合があります。

本研究科で開講しているテキスト科目の概要は、こちらのURLからご覧いただけます。

<https://www.n-fukushi.ac.jp/gs/divisions/isd/research/index.html>

